

はしがき

最近になり特に幕末の備中松山藩（現在の岡山県高梁市）の財政再建に成功し、貧しい領民の生活を安定させ、失業者の減少に努力し、教育や治安にも力を注いだ、山田方谷に注目が集まっている。そのためか、最近、方谷に関する書物が数多く出版されている。なぜ方谷が注目されているのかを考える場合、現在の日本の置かれている現状と関係があるのかもしれない。リーマンショック以来、金融危機の影響が深刻化した結果として、世界的な消費低迷のために、中小・零細企業だけでなく、世界的な大企業の業績も急激に悪化している。また、ホームレスの増大、派遣社員、非正規社員だけでなく正社員のリストラ、賃金カットという現象までも起こっている。一方、方谷は儉約に基づく財政再建策を実行し、上級武士に対しての給与、賃金カットを行っているが、貧しい農民や下級武士に対しての給与、賃金カットそして増税は行っていない。企業の論理としては、企業の存続のためには社員を犠牲にせざるをえないという考えであろうが、方谷は、藩の財政再建において貧しい領民を犠牲にはいけないという考えである。多くの企業の改革理念は、方谷の改革理念とあまりにも対照的である。そして、方谷は藩の財政再建に成功したが、企業は人件費を減らしているのに、必ずしも成功していない。方谷の改革は、貧しい

農民や下級武士に対しての給与、賃金カット、そして増税は行わず、貧しい領民を豊かにすることを目的とした結果、備中松山藩という企業が豊かになり、財政再建に成功したのである。

今日、方谷が注目されているのは、多くの人々が、方谷のような賢明で温かい心のある指導者が現れるのを待ち望んでいるのであろうか。現在の日本において、賢明で温かい心を持った指導者が少ないからであろう。方谷は、今から200年ぐらい前に生まれ、備中松山藩の藩政改革に取り組んだが、その経営哲学や経済思想を明らかにすることはできるはずである。私たちは、国や地方公共団体の累積した財政赤字、昨今の経済不況とデフレ、資本のグローバル化による経済格差問題に直面すると、彼なら克服できるのではないかという思いを寄せ、景気が悪くなればなるほど、方谷は注目されていくであろう。方谷に関しては数多くの書物が出版されて、各種資料等の解説・翻訳、また方谷の生い立ち、藩政改革の内容についてわかりやすく説明しているが、ケインズ経済学や新古典派経済学のようなマクロ経済学の視点から分析しようとする試みまではなされていないのが現状である。そのためには、当時の時代背景や経済環境を含めた歴史的資料等をいかに解釈し、分析するのかということが大切であると思われる。

「山田方谷の藩政改革」というテーマの研究を続けていく中で元山陽学園大学教授太田健一先生から、方谷の経済政策、歴史的分析についてご指導いただきました。

京都大学大学院経済学研究科において、吉田和男先生（京都大学大学院経済学研究科教授）にご指導していただきました。方谷が佐藤一斎の下で陽明学を学んだのと同じように、先生に出会い、経済学だけでなく陽明学も学ぶことができました。

ロンドン大学大学院経済学研究科に留学していましたが、山本裕美先生（京都大学名誉教授／中央大学経済学部教授）、福尾洋一先生（関西学院大学名誉教授）、大泉英次先生（和歌山大学経済学部教授）、故森嶋通夫先生（当時ロンドン大学名誉教授）にご指導していただきました。関西学院大学経済学部において故杉谷滋先生（元関西学院大学名誉教授）にご指導していただきました。

また、親類の筋にあたりますが、故熊谷尚夫先生（当時大阪大学名誉教授）からご指導をいただきました。

山田方谷研究会を通じて、故坂本忠次先生（元岡山大学名誉教授、元関西福祉大学教授）朝森要先生（元吉備国際大学非常勤講師）、野島透先生（財務省）、柴田一先生（就実大学名誉教授）からご指導いただきました。

池上惇先生（京都大学名誉教授）、上田正昭先生（京都大学名誉教授）から励ましの言葉をいただきました。

その他多くの方々にお世話になり、深くお礼を申し上げます。

2011年8月

三宅 康久

山田方谷の藩政改革とその現代的意義
—— 経済政策を中心として ——

目 次

はしがき	1
------	---

第1部 経済不況、デフレ、財政赤字解決のための 新しい経済政策	9
--	---

序章 山田方谷の藩政改革と経済政策を現代の経済不況、 デフレ、財政赤字の解決のために生かす	18
--	----

第1章 想定・認知と経済政策	23
----------------	----

1. 言語学における認知プロセスと経済政策 23
2. 現代の金融危機に対して方谷の通貨政策からの教訓

30

第2章 ケインズ経済学、新古典派経済学の視点からみた 山田方谷の藩政改革	32
---	----

1. 問題提起 32
2. 今までにない新しい経済政策の可能性 36
3. ケインズ経済学と新しい経済政策の違い 39
4. ソリトン型経済システムとしての可能性 45

補論 国営企業設立の現代的意義

——専売制における買上価格と最適化—— 50

第2部 山田方谷の藩札刷新政策の経済モデル ……	61
第1章 山田方谷の藩札刷新政策とその経済学的意義 …	62
第2章 備中松山藩における正貨と藩札の経済モデル …	71
第3章 藩札の信用回復のハネムーン効果 ……………	80
第4章 山田方谷の藩札刷新モデル ……………	90
第5章 今後の研究の方向性 ……………	102
第3部 山田方谷の財政再建と金融マクロ経済政策 ……………	107
第1章 現代に生かす山田方谷の藩政改革と財政再建 …	117
第2章 現代の財政思想 ……………	124
第3章 新しい財政理論と金融市場 ……………	128
参考文献 ……………	136

■ 著者紹介

三宅 康久 (みやけ やすひさ)

関西高校、関西学院大学経済学部卒業後、英国へ留学。

ロンドン大学より経済学修士号取得 (国際マクロ経済学、国際金融論専攻)

ロンドン大学大学院博士課程

京都大学大学院経済学研究科にて、金融市場の研究に従事する。

帰国後、山陽学園大学にて山田方谷論について教授する。

山田方谷研究会 事務局長

山田方谷研究会事務局

岡山市北区小山 502

FAX 086-287-2397

TEL 090-8608-6616

E-mail: houkoku 0221m.jp@gmail.com

主な著書

『英語長文読解力』(単著) 文英堂、2001

『英語教育実践学』(共著) 開隆堂、2005

『山田方谷の研究』(共著) 山田方谷研究会、2006

『現代に生かす山田方谷の藩政改革』(単著) 大学教育出版、2006

山田方谷の藩政改革とその現代的意義

—— 経済政策を中心として ——

2011年9月30日 初版第1刷発行

■ 著 者 —— 三宅康久

■ 発 行 者 —— 佐藤 守

■ 発 行 所 —— 株式会社 **大学教育出版**

〒700-0953 岡山市南区西市 855-4

電話 (086) 244-1268 FAX (086) 246-0294

■ 印刷製本 —— サンコー印刷 (株)

© Yasuhisa Miyake 2011, Printed in Japan

検印省略 落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

本書のコピー・スキャン・デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN978-4-86429-095-1